

水道メーターの

リサイクル作業始めます

2015年4月17日 毎日新聞

水道メーター分解、障害者施設に委託

福山市県内初、3事業所に

福山市上下水道局は4月から、2011年の規格の変更に伴って取り替えを進めている水道メーターについて、廃棄・リサイクル

ルする際の分解、分別業務を障害者就労施設へ委託することにした。県内では呉市と並び、初めての試みという。

2013年4月施行の障害者優先調達推進法で、施設の受注機会増大の努力義務が課せられたことから、社会貢献策として決めた。今年度は3事業所に委託して年間計約1万個を処理。銅合金の金属部分を取り分けてリサ

イクルに回し、残りの計器類、ガラス、パッキンなどは産業廃棄物として処分する。

このうち16日は、同市引野町南1の障がい福祉サービス事業所「ジョイ・ジョイ・ワーク引野」で、職員が利用者に分解の仕方を指導。専用の器具やハンマーなどを使って手順や要領を説明した。同施設では就労訓練の一環で、豆腐作りや庭園の草抜きなどの作業に8人が従事。メーター分解に初挑戦した藤本直人さん(18)は「簡単で楽しかった。

もっとやってみたい」と笑顔。施設管理者の

池田晴美さんも「みんなで分担しながら作業ができ、安定した収益が得られることで働く喜びを知ってもらえたら」と話していた。

同局によると、メーターは市内に約9万個ある。金属部分は1ヶ当たり500円前後で取り引きされるが、分別してあれば80～100円上乘せすることができ、その分を工賃として施設側に支払う。

【立石信夫】



市職員の指導を受けながら、水道メーターの分解作業に挑戦する施設の利用者—福山市引野町南1で